

臨床検査専門科目	生体機能検査学					
		2単位	実験・実習	平成30年度	後期	2年次
臨床検査学科	必修					
科目名	生体機能検査学実習 Practice of Clinical Physiology					
担当教員	◎櫻井進 堀江修 内堀恵美 小林昌弘 豊田茂美 吉村さゆり					
目的	生体機能検査学の講義および演習によって培った知識、技術をもとに、各種検査手法の習熟および得られた検査結果の評価について学ぶことを目的とする。呼吸器・循環器・脳神経・画像検査・臓器観察の計5分野の実習を行う。					
目標	<p>生体機能検査学(総論・各論)で習得した知識を元に、各種生体機能検査の実習を行う。それぞれの検査における被験者への配慮、説明を的確に行うことができる。各画像診断検査ごとに正しい検査手技を説明できる。得られた検査データについて、その信頼性を評価し、病態を理解できる。</p> <p>●下記の各種検査機器について取り扱いおよび被験者への検査説明を検者として実施できる。</p> <p>I：呼吸機能系検査 ① スパイロメータ、六分間歩行検査、サーモグラフ。</p> <p>II：循環機能系検査 ① 標準12誘導心電図、マスター2階段検査、ホルタ心電図、CVR-R検査。</p> <p>III：神経機能系検査 ① 脳波計、筋電計、重心動揺計、聴力計。</p> <p>IV：画像診断検査 ① 超音波検査機器(腹部、頸動脈、体表臓器)。</p> <p>V：その他の生体機能検査 ① 視覚、味覚、嗅覚、触覚、視標反応速度、筋力などの検査、エルゴメータ。 ② 睡眠関連検査(パルスオキシメータ、携帯型心電計、携帯型血圧計)。 上記の各種検査に関する熟練技師の操作手技、検査方法に対する工夫、さらに臨床現場における対応方法などについて理解できる。</p> <p>●下記の模型、臓器について取扱い、および臓器名・臓器配置・血管・組織に関する説明ができる。</p> <p>V：臓器関連領域 ① 人体解剖模型(全身臓器・血管、脳神経・各種臓器模型)。 ② ブタ新鮮臓器(心臓・食道・気管・肺、胆嚢・肝臓、子宮・卵巣など)。</p>					
他科目との関連	生体機能検査学総論、生体機能検査学各論、生体機能検査学特論					
評価方法	項目	評価の内容				評価の比率
	レポート	提出レポートの成績				
評価基準	総合の得点100～90点を秀、89～80点を優、79～70点を良、69～60点を可と評価し、合格とする。59点以下は不可と評価し、不合格とする。					
教科書	生理機能検査学実習マニュアル(実習開始前に配布予定)					
参考資料	生理検査学画像検査学(医学書院)、「臨床病態学1」ヌーベルヒロカワ、最新臨床検査学講座 生理機能検査学(医歯薬出版)					
備考 (受講上注意、事前学習等)	始業時刻までに、白衣+白靴に更衣し、実習書を持参し、生体機能検査実習室に集合すること。7-8名からなるグループを4班作り各分野の実習を順次行う。学外講師の都合により、適宜順番・日程を入れ替える。					